

## 総会への思い

柴田由紀子

コロナ？と聞いて三年が過ぎました。

前代表から次へ繋げるためのバトンを頂き、すぐにコロナ禍で総会、勉強会も出来なくなり、通信で一方通行になってしまい心苦しかった日々の中、そろそろ総会をとの声があがり、みなさんの声が直に聞けることに心が踊り出しました。

橋本先生をお招きして、緩和ケアの現状や在宅医療の現状など伺いたいことがあります。運営委員会では、いつも少し先を見ながら、今何を知りたくて学びたいのかと話し合い、企画しています。

時間の流れの中で在宅での過ごし方も変わり思いも変わってきたのではないのでしょうか。そんな思いをみなさんと話せる喜びはコロナが終息に向かっていると思いたいものです。総会や勉強会に参加出来ない方とも、変わらず通信を通して、これから知りたいことを一緒に学んでいけたらと思っています。

少しずつ暖かくなり春が来るように、私たちにも当たり前の日常が訪れ、無事に総会が開催されることを願っています。





NHK 総合「病院ラジオ」より  
「病院ラジオ」とは、病院内に1日限りのラジオ局を開設し、院内に向けて放送されます。  
患者様、ご家族の方々が病気の事、治療の事などをいろいろお話されます。  
今回は「長野県立こども病院」からでした。

制作者の方からのメッセージを紹介します。  
「難病、がん、食物アレルギーなどさまざまな疾患と向き合う子供たち、大変な状況にあっても、病  
気や体の状態を客観的に見つめ、治療に向き合おうとする姿、葛藤を抱えながらも明るく幸せなエピ  
ソード。ありふれた言葉ですが、生きる力強さを感じひとりの大人として、背筋を正される思いにも  
なりました。  
医師や看護師に限らず、院内学級の先生、保育士、清掃員、ボランティア、事務の皆さんなど、子供  
に関わるすべての人が、全力でサポートしている姿も印象的でした。そんな温かい場所で大切なお話  
を聞かせていただきました。」

リクエストされた曲と共に、さまざまな人の思いが伝わってきました。  
そして愛知病院緩和ケア病棟でのボランティアをさせていただいた日々を思い出しました。  
コーヒーの香りの中、ピアノの音が優しく流れ、静かに過ぎるアロママッサージの時間。ボランティ  
ア仲間の皆さんと、温かく穏やかな時を過ごして頂きたいと携わって来ました。  
今まだ活動は休止していますが、市民病院緩和ケア病棟での新たなボランティア活動も、そのように  
出来るようにと、また連絡があればいつでもお伺いできるように準備していきたくと思っています。  
(神尾弘美)



## “つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり  
第4木曜日 10:00~12:00 社会福祉センター（第2活動B室）

四月は「ひらひら」

「音の歳時記」の中で那珂太郎さんは、こう表現されています。  
この通信が届く頃、花びらが蝶がひらひら舞う日々となっていることでしょう。  
そして少しずつ日常も変わり始めてくる頃かと思えます。

“つどい”は可能なかぎり対策をして、安心して参加いただけるよう続けていくつもりでいます。  
「安心出来る大切な場所」「人それぞれの考え方、意見が聞ける」「いろいろな思いを共有できる  
心の拠り所で本音と言える」と参加されている方々からお声を頂き、少しでも心に寄り添う場所と  
なれるようにと改めて思っています。  
(神尾弘美)



昨年、2022年の3月に20年勤務した会社を退職しました。  
次男が小学校に入学した事を区切りに働き始め、29年働いてきました。若い頃から働き続けている方にはとても頭が上がりませんが、私なりに頑張ってきたつもりです。  
初めは、友人の鉄工所で働かせてもらい、暑い夏も寒い冬も油まみれで働きました。次にレンタル会社で接客しながら事務仕事に専念し、そして最後に昨年退職したイベント会社で事務一般を任せられ、大変ではありましたが、やり甲斐のある仕事でした。  
ある時は、得意先とのいざこざで裁判を起こしたり、入札に参加したりと分からないことばかりでしたが、幾つになっても日々学びだと頑張った記憶があります。  
そんな張りつめた毎日を送っていて、いざ退職をしたら何やらあちらこちらが痛くなり、無理がたたったのかなとも思いましたが、実際はどうも違うようです。自分の身体への甘えと申しましょるか、日々の緊張感の無さと申しましょるか。友達と遊びに行くときは、とても元気なのです。困ったものです。これは、何か行動に移さなくてはと思っていた矢先に柴田さんからボランティアのお誘いを受け、月に一日の参加ですが今では有難い集いになっています。  
教会の会議室での静粛な二時間。シャキシャキと鉄の音だけが聞こえるあの二時間。  
今では私の貴重な生活の一部になっています。社会の一部に身を置くということは、私にとってはビタミン剤のようです。ご縁がある限り、シャキシャキと頑張りたいと思っています。

(鈴木温子)



♥今年度も愛知国際病院・幸田の家などへ、依頼されたものを納めることが出来ました。  
ありがとうございました。

引き続きタオル(新しい物でなくても大丈夫です)・バスタオル・シャツ・肌着・シーツ・パジャマ・寝間着など、着古した木綿のものなどのご寄付をお願いします。

また、氷まくらや尿カバーを作る新しい綿布もありましたらよろしくをお願いします。(勝川俊子)

## 前略

初めまして。愛知国際病院の宮崎と申します。

今回、幸いにも橋詰様とお話させて頂く機会を得ました。そこで会報誌を頂き一読。今まで自分たちが使わせて頂いていた布たちが、どこで生まれた（少々変な表現ですが）のかを、知ることができました。

いつも大きさが揃えられ、綺麗にまとめられ梱包して届く布たち。これらは患者さんのベッドサイドのみならず、ホスピス以外の場所にも届けられています。

特にコロナ禍になってからは、職員が使用する机や来院者の使用された物など、アルコールによる清掃となりました。そんなときこの布をさっと手にして掃除。そのあとはゴミ箱にポイ。清掃場面で登場することが非常に多くなりました。

一方、ホスピスの現場もかなり変化しました。高齢の方も多いため、より肌触りを考えながら、コロナも加わった感染管理。そのためこれ迄のおしり拭き布から、細かな所でサッと使えるお掃除役目が重要任務になりました。布たちが直接患者さんに触れることはなくなりました。でも周囲の環境に気をくばる人たちの手にのって、病院内にとどまることなくあちらこちらに出動しています。

このような稚拙な文章でしか言い表せないもどかしさも感じつつ、あらためて皆さまの活動に感謝をこめ、書面をお借りしお礼申し上げます。

本当にありがとうございます。

そして今後ともよろしくお願い申し上げます。

早々



愛知国際病院 ホスピス師長  
宮崎 里佳子

## あとがき

この春、待ちに待った総会を開催できる運びになりました。

2022年度までは、今まで皆さまからいただいた会費やご寄付により、通信や年間計画表などをお送りできたことは、運営委員一同大変喜んでいきます。

本当にありがとうございました。お目にかかれない間に、ご家族やみなさまに大きな変化もあったかと思えます。困っていること、聞きたいことなどご相談くだされば、御一緒に解決方法を見いだしたいと願っています。  
(橋詰清子)

岡崎ホスピスケアを考える会 代表 柴田由紀子 電話0564-55-0838  
携帯080-5138-0838  
FAX0564-74-2003